

岡山県指定史跡 木下利玄生家

遺跡の概要

足守藩木下家陣屋跡に位置する木下利玄生家は、白樺派の歌人として知られる木下利玄が明治19年に生まれ、5歳で家督を相続して上京するまで過ごした地です。明治4年の廃藩置県の後、木下家屋形構跡の建物の多くは取り壊されましたが、陣屋南側建物の一部は足守県庁舎として、北側は木下家の住居として使用されました。その後の敷地南側は女学校、公民学校、青年学校などに改築を繰り返し、現在は公園となっています。北側はもとの御殿建築の一部である主屋と薬医門、土蔵付長屋門が残っています。

薬医門は傷みが激しく、このたび保存修理をおこなうこととなりました。修理は全解体修理で、基礎も不等沈下を防止するため、コンクリート打設の上、基壇石、基礎を復旧することとしたので、その事前に基壇部分の記録保存及び盛土・造成土部分の記録を行いました。

調査の概要

調査は、まず基壇の延石を残した状態で、トレンチ4ヶ所を設け、各トレンチで現地表から20～30cm程度掘り下げて土層や基壇石との関係を観察しました。いずれも薬医門建築時の整地土と考えられる土層と、門建築以前の土層と考えられるものでした。基礎掘削時にも確認しましたが、掘削範囲に明確な遺構はみられませんでした。

薬医門は江戸時代末の絵図には記載されていません。遺構が見つからなかったのはそのためでしょう。薬医門は明治になってから建てられた建物と思われますが、はっきりした来歴はわかりませんでした。

屋根の解体の際、部材に墨書を確認しました。墨書は冠木などに書かれており、

「木下利永様／御近付／勅使河原静也様／大工／湯浅久治郎」

とあります。内容や人物名から薬医門の建築時期を明治30年頃と推定することができます。

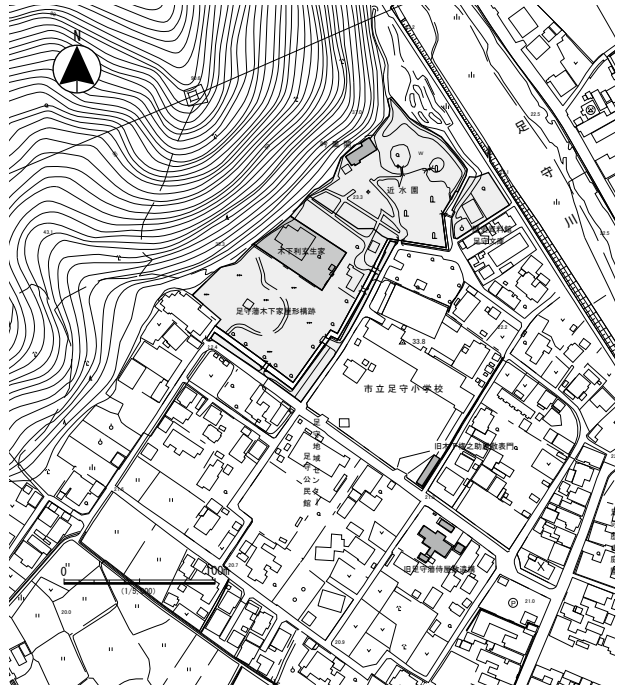


図1 木下利玄生家の位置 (1:5,000)



図2 木下利玄生家薬医門（修理前）

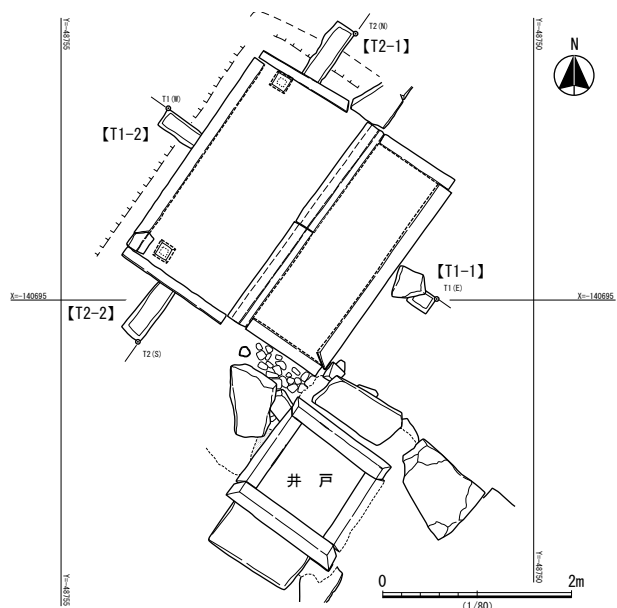


図3 薬医門基壇とトレンチ配置 (1/80)